

令和2年度 事業計画

社会福祉法人 豊岡市社会福祉協議会

令和2年度 事業方針

国では、子ども・高齢者・障がい者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」を実現することを掲げています。これは、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築するものであります。

豊岡市社会福祉協議会（以下「豊岡市社協」という。）は、生きづらさを抱える方を含め、様々な住民の地域生活を支え、また、その人らしく役割、生きがいを持って暮らし続けられる地域づくりに地域住民、社会福祉法人、企業、市等と連携・協働して取り組みます。

令和2年度事業計画では、『豊岡市地域福祉計画』、『第2次基盤強化計画』及び令和元年度に策定した『中長期経営計画』に基づいて、組織体制の強化、地域福祉の推進、介護サービスの展開等を定めています。とりわけ、介護サービス部門における競合他社の増加等により経営状況が厳しさを増す中、経営の方向性の検討や人材育成、サービスの質向上により利用者の確保を図り、安定的な組織経営に取り組みます。

豊岡市社協の基本理念に基づいて、事業計画の各事業・取組を着実に実践し、豊岡市社協の使命及び社会的役割を果たしてまいります。

基本理念

「一人ひとりが つながり 支え合う 安心な地域づくり」

使命

1. 多様なネットワークの構築と、住民主体の地域福祉を推進する。
2. 住民がその人らしい豊かな在宅生活を送るための支援を行う。
3. 確固たる組織経営を構築する。

重点的取組 ※（ ）内は関連ページ

1. 制度やサービスでは対応できない地域の様々な課題（8050問題《※》、老々介護、虐待等）に地域支援と個別支援の両方の視点をもって各職員が取り組むように各部署・事業所が連携して情報を共有し、支援に取り組みます。（P3～P4）
《※》80代の親が50代の子どもの生活を支えるという問題。背景に子どものひきこもりがある。
2. 中長期経営計画に基づいたデイサービスセンターの事業運営、市との契約期間の協議や、趣旨・内容が同様の地域福祉事業の見直し、一体化に取り組みます。（P4）

3. 行政区圏域での住民の集いの場づくり（いきいきサロン、ふれあい喫茶等）、地域課題の解決に向けた話し合いの場づくり（福祉委員会、見守り会議等）を重点的に推進します。
（P6）
4. 地区圏域での地域福祉活動実践者、地域コミュニティ組織、介護事業者、民間企業等で構成される「協議体（地域サポート会議）」による支え合い、サービス提供体制の構築に取り組みます。（P6～P7）
5. 地域福祉フォーラムを開催し、講演会や実践発表を通じて、地域福祉活動の意識を高め合うことの大切さを認識する機会とします。（P7）
6. 豊岡市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんねっと）を通じて、他法人とのネットワークの構築、既存の制度では対応できない子ども、高齢者、障がい者等の地域における課題の解決に向けた新たな社会資源の開発に取り組みます。（P7）
7. 福祉委員活動のモデル行政区の選定、研修会での実践発表や、区長・民生委員等との連携強化を通じて、福祉委員が役割を發揮できる基盤づくりを進めます。（P8）
8. 総合相談センター（総合相談・生活支援センター、各地域包括支援センター、障害者基幹相談支援センター、）を中心に、高齢者、障がい者、ひきこもり、経済的困窮、制度の狭間にある課題への相談対応を地域住民、関係機関・団体等との連携・協働により推進します。（P8～P9）
9. 認知症や障がい等により判断能力が不十分な方が地域で安心して自立した生活が送れるよう、権利擁護に関するプロジェクトチームによる権利擁護機能の強化、体制の構築について検討を行います。（P9）
10. 居宅介護支援事業、訪問介護事業、訪問入浴介護事業、通所介護事業、小規模多機能型居宅介護事業の展開により、要介護・要支援状態にある利用者の多様化する介護ニーズに対応し、積極的に利用者の確保を行い、その人らしい豊かな在宅生活を送るための支援を行います。（P10）
11. 同一労働同一賃金への対応を含めた正規職員、嘱託職員、非常勤職員の役割の整備に取り組みます。嘱託職員、非常勤職員の業務実績の評価が反映される給与制度の構築に取り組みます。（P11）
12. 市民に向けて善意銀行の主旨、活用内容のPR・周知を目的としたイベントを実施し、善意銀行への協力者の増加を図ります。（P13）

1. 組織運営体制の強化

豊岡市社協が地域福祉活動を推進する組織としての役割を果たしていくためには、事業運営の方向性を明確にし、組織内連携の情報共有・連携体制の充実が基盤となります。

地域福祉、総合相談、介護サービスの各部門間のミーティング等を通じて連携強化を図り、地域ニーズ・地域課題の解決に一体的に取り組みます。

(1) 住民ニーズ、地域課題の解決に向けた組織内連携の強化

① 地域福祉推進のための組織内協議の場の強化・連携

豊岡市地域福祉計画に位置づけられている2つの基本目標「住民の主体的な地域づくり」、「総合的な相談・支援体制づくり」の確実な推進に向け、圏域（旧市町域）を軸に地域支援担当職員、相談支援担当職員、介護サービス事業所職員等が連携して取り組みます。

ア 圏域ミーティング

参集範囲…コミュニティワーカー、生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、ケアプランセンター、ヘルパーステーション、デイサービスセンター、ぐるらん

- 各部署の情報共有
- 地域の生活課題、社会資源情報（集いの場、支え合いの人材等）、見守り会議の内容等の共有
- 個別ケースや地域の共通課題に対する地域住民と専門職の連携・協働による支援の検討

イ 圏域行動計画コアメンバー会議

参集範囲…コミュニティワーカー、生活支援コーディネーター、総合相談・生活支援センター、地域包括支援センター、障害者基幹相談支援センター、在宅福祉課、ケアプランセンター、ヘルパーステーション、デイサービスセンター、ぐるらん、企画総務課

- 地域福祉計画の基本目標達成に向けた圏域ごとの行動計画の実践、成果・課題の検証

② 地域支援と個別支援の一体的な推進

地域の様々な課題を地域支援と個別支援の両方の視点を持って活動できる人材の育成に地域福祉課学習会、圏域ミーティング、圏域行動計画コアメンバー会議を通じて取り組みます。

③ 総合相談センターの連携体制の整備

総合相談センター連絡会議（総合相談・生活支援センター、障害者基幹相談支援センター、各地域包括支援センター）を定期的実施し、各部署間の情報・役割の共有、地域住民との連携・協働や人材育成について検討します。

4つの地域包括支援センターを取りまとめる管理職の配置を検討します。

(2) 目標管理による確実な組織運営、事業計画・予算目標の実行

基盤強化計画に位置づけた取組を着実に実行していくために、課長補佐以上の管理職を中心とした目標管理制度による月次単位での進捗状況の管理、評価に取り組みます。

主な重点的取組

- ▶ デイサービスセンターの事業運営の方向性の整理
- ▶ 支え合いの地域づくりのための行政区での集いの場、話し合いの場づくり
- ▶ 各介護サービス事業所の目標収入の達成に向けた進捗管理

(3) 介護サービス事業所の連携体制の整備

各部門の統括マネジャーを中心に各事業所の利用状況や課題を把握し、人材育成、業務改善やOJT指導に取り組みます。また、地域の状況に合わせた事業展開ができるよう協議に着手します。

- ▶ 計画的な管理者の配置、職員の育成に向けた研修受講計画の作成
- ▶ 各事業所間のサービス提供状況の共有、地域の状況に合わせた事業展開に向けた4つの圏域（豊岡、城崎・竹野、日高、出石・但東）ごとの管理者会議の開催
- ▶ ケアプランセンター、ヘルパーステーション部門の統括マネジャー配置の検討

2. 財政基盤・組織経営の強化

豊岡市社協が確固たる組織経営を構築し、住民のその人らしく豊かな在宅生活を守りきるためには、財政基盤の柱である介護サービスで安定的に収益を確保することが必要です。

近年の経営状況の厳しさから介護サービスの事業のあり方について見直しが必要な状況です。特に、デイサービスセンターについては修繕、土地代等の施設維持経費が高額となり、経営を圧迫している要因となっています。デイサービスセンターを中心に事業運営、人員配置の検討等に取り組み、収益の増加を図ります。

(1) 中長期経営計画に基づいた取組の推進

令和元年度に策定した『中長期経営計画』に基づき、介護サービス事業を中心とした経営基盤の強化及び安定的に収益を確保できるよう取組を進めます。

- ▶ 市から譲渡、貸付を受けているデイサービスセンターの事業運営、契約期間等について市と協議を実施
- ▶ 竹野南デイサービスセンターの事業運営の方向性について検討
- ▶ 日高西デイサービスセンターの空きスペースの活用の検討
- ▶ 利用者ニーズに更に対応できるようケアマネジャー増員の検討
- ▶ 介護サービス事業等の収益に見合った適正な人員配置の検討
- ▶ 他事業者との共同による介護職員初任者研修開催の研究
- ▶ 趣旨、内容が同様の地域福祉事業の見直し、一体化の推進

(2) 組織の機能強化及び運営強化

地域福祉活動を推進する中核的な組織として、制度改編や社会情勢の変化に対応できる組織づくりに向けてマネジメント機能の強化、住民参画による組織運営を実行します。

- 専門部会を基盤とした執行機関の機能強化及び組織運営
- 地域福祉推進委員会等を通じた地域課題の集約、組織運営への反映
- 業務マニュアルの整備・運用、事務作業の簡略化・IT化による業務の効率化の向上

(3) 健全な財政運営の実践

継続的かつ安定的な社協事業・活動の実施に向け、無駄な支出を削減し、コスト意識を持った予算執行の徹底、財務体質の強化を図ります。

- デイサービスセンターの空調機器等の取替・修繕が発生した時の積立金の運用
- 市から譲渡を受けているデイサービスセンターの将来的な返還（建物の取り壊し）に備えた積立の開始

(4) 介護サービス事業の健全経営に向けた強化・充実

利用者のその人らしい豊かな在宅生活を守りきるために、財政面においても確実な収益を確保して安定的な経営の継続を図ります。

主任介護支援専門員、介護福祉士等の積極的な資格取得による質の高いサービスの提供を実施します。

- 介護サービス事業の採算性の確保に向けた目標管理による数値目標の設定、評価の実施
- 介護サービスの実施に関する年次計画に基づく研修を通じた人材の育成
- 医療機関等との情報共有・連携の強化を図り、重度者や終末期等の利用者の在宅生活の支援の継続

3. 包括的支援体制整備・地域福祉ネットワークづくりの強化・充実

生きづらさを抱えた人や在留外国人、地域から孤立している人等が、地域とのつながりをつくり、支え手と受け手に分かれるのではなく、あらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく地域の中で暮らし続ける地域共生社会の実現が求められています。

地域共生社会の実現に向けて、豊岡市社協は「協議体組織」として、住民、NPO、企業、関係団体等の協議・協働の場づくり、様々なネットワークの構築に取り組みます。

地域の生活課題に応じたボランティアの育成、福祉委員活動の充実、地域福祉フォーラムによる地域福祉活動に対する住民の気づきの場等により、地域共生社会の土台づくりを進めます。

総合相談センターを中心とした支援が必要な方への相談機能の充実や、生活再建に向けた資金の貸付等によるセーフティネット機能の役割を果たします。

(1) 多様なネットワークによる住民ニーズ・地域課題の把握、社会資源開発の検討

① エリア階層別の課題解決・サポート体制の構築・推進

豊岡市地域福祉計画において、エリア階層別の課題解決・サポート体制の構築を位置づけ、地域における住民主体の課題解決や包括的な相談支援体制を推進しています。

住民主体の課題解決に向けて、エリア階層を4つ（行政区圏域、地区圏域、旧市町圏域、市圏域）に設定し、それぞれの階層における課題解決のためのネットワーク（協議の場等）を構築し、住民主体の課題解決の取組がすすむよう住民と専門職が協働します。併せて、市、社協、福祉分野の各種専門機関等が包括的・総合的な相談支援ネットワークを構築し、地域では解決できない課題への対応を行う包括的な相談支援体制を推進します。

エリア階層別の課題解決・サポート体制の実現に向けて、職員の理解浸透を図り、各部署が連携しながら取り組みます。

- ▶ 住民主体の課題解決に向けた話し合いの場（行政区圏域：見守り会議、地区圏域：協議体（地域サポート会議））の設置および機能強化
- ▶ 旧市町圏域の地域福祉推進委員会、市圏域の地域福祉部会のそれぞれの機能強化および連携強化
- ▶ 地域ケア会議、総合相談支援チーム会議等のネットワーク会議の充実および市、関係機関・団体、地域住民との支援ネットワークの強化

② 支え合いの地域づくりのサポート

ア 行政区圏域

住民が交流し、つながりを深める集いの場づくり、地域の課題を共有し解決に向けた取組を協議する話し合いの場づくりを住民が主体的に進められるようサポートします。場づくりを通じて、住民と協働し、地域の支え合いの仕組みづくりに取り組みます。

- ▶ 集いの場づくり（いきいきサロン、ふれあい喫茶等）の設置・運営のサポート
目標設置数（全359行政区中）…305行政区（R2.1末現在…288行政区）
- ▶ 地域課題の解決に向けた話し合いの場づくり（福祉委員会、見守り会議等）の設置・運営のサポート
目標設置数（全359行政区中）…215行政区（R2.1末現在…180行政区）
- ▶ 住民同士の支え合い活動、困りごとへの対応等の生活支援の場づくりの推進

イ 地区圏域

生活支援コーディネーターを中心に、地区圏域において、住民や事業所、団体等が協力して地域課題の解決に向けて支え合い活動を広げ、地域課題について定期的に話し合う場として「協議体（地域サポート会議）」を実施し、協議の中から様々な取組を構築します。

- ▶ 地域福祉活動実践者（サロン世話役や見守り活動の実行者等）と連携した住民ニーズ、生活課題、社会資源の把握及び住民への課題提起
- ▶ 生活支援の担い手の発掘・育成に向けた研修会等の開催、組織化、支援活動へのマッチング

- ▶ 地区圏域で地域福祉活動実践者、地域コミュニティ組織、社会福祉法人およびNPO法人等の介護事業者、民間企業等で構成される「協議体(地域サポート会議)」における協議、多様な主体による支え合い、サービス提供体制の構築

協議体（地域サポート会議）

目標設置数（全29地区中）・・・29地区（R2.1末現在・・・13地区）

ウ 地域福祉フォーラムの開催

地域福祉フォーラムを開催し、講演会や実践発表を通じて住民自身が地域福祉活動の素晴らしさや大切さを学び、支え合いの地域づくりを進めるためにできることを考える機会とします。

エ 地域福祉推進委員会の推進

支所圏域（旧市町域）ごとに地域福祉推進委員会を開催し、地域福祉活動、地域づくりの着実な推進に向けて、地域福祉活動実践者が参画し、地区や行政区における住民ニーズ、地域課題の把握、課題解決に向けた協議を行い、地域活動へのフィードバックを進めます。

オ 地域福祉活動に関する映像、手引きの作成

住民が主体的に取り組んでいる集いの場、話し合いの場、見守り活動等の映像や活動の手引きを作成し、活用することで支え合いの地域づくりを推進します。

③ 多様なネットワークづくりの推進

社会的孤立や制度・サービスでは対応できない複合的な問題の解決に向けて、地域住民・市・関係機関・企業等との連携・協働に取り組めるようネットワークの構築・強化を進めます。

- ▶ 社協内のネットワーク検討チームにて、市内の既存のネットワークの調査

④ 豊岡市社会福祉法人連絡協議会への参画

既存の制度では対応できない子ども、高齢者、障がい者の地域における課題の解決に向けて、市内全社会福祉法人（23法人25施設）が参画する豊岡市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットとよおか）を通じて、他法人とのネットワークの構築、新たな社会資源の開発に取り組みます。

⑤ ボランティア・市民活動の推進

地域住民、事業所、企業、関係機関等から地域の生活課題・ニーズを把握し、ボランティア活動者とのマッチングや人材育成に取り組み、地域の支え合いの仕組みづくりに取り組みます。

学校や企業、各種サロン・サークル活動等を対象とした各種講座の開催、地域住民等との連携・協働した取り組みを通じて、福祉教育の推進を図り、ボランティア活動や地域福

祉活動への理解を深めます。

- 有事の際の災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練、市との連携体制づくりに向けた協議の実施
- 各種ボランティア体験教室、社協出前講座の開催と積極的な広報活動の実施
- 福祉教育推進校や地域住民、障がいのある当事者、ボランティア等との連携・協働による福祉教育の実施
- セルフヘルプグループの活動把握および関係構築

(2) 福祉委員活動の強化

福祉委員が区長、民生委員、民生・児童協力委員等と連携した見守り・支え合い活動をすすめ、話し合いの場（福祉委員会・見守り会議等）に参加し役割を発揮できるよう、コミュニティワーカーが働きかけと活動のバックアップに取り組みます。

- 区長、民生委員等との合同研修会を通じた福祉委員の役割の浸透、行政区内での連携体制の強化
- 福祉委員活動のモデル行政区の選定、研修会での実践発表

(3) 総合的な相談支援事業の推進

総合相談センター（総合相談・生活支援センター、障害者基幹相談支援センター、各地域包括支援センター）を中心に、高齢者、障がい者、ひきこもり、経済的困窮、制度の狭間にある住民や複合的な課題のある世帯等への支援に向けて、地域を基盤とした相談支援を地域住民、関係機関・団体等との連携・協働により推進します。

① 総合相談・生活支援センター業務の推進

制度の狭間や複合的な課題を抱えている生活困窮者に対して、社協・市の庁内連携体制による包括的な支援体制づくりに取り組みます。

- 地域や企業と連携した就労体験、中間的就労、居場所づくり等の資源開発
- 総合相談運営会議、支援チーム会議による市と社協の横断的な連携体制づくり、生活困窮者の早期発見・早期対応の強化
- 子どもの貧困対策を通じた生活困窮世帯の早期発見、関係機関や地域住民との連携・協働による支援

② 地域包括支援センター業務の推進

重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを推進する中核的機関として、高齢者の総合相談支援、権利擁護支援、認知症予防・支援の推進等を行います。

- 高齢者虐待の相談対応、成年後見制度の利用促進、消費者被害の防止等、権利擁護支援の推進
- 介護支援専門員への支援やネットワーク構築等の包括的・継続的ケアマネジメント業務の実施

- 認知症の正しい理解と知識の普及啓発、認知症の方やその疑いのある方に早期に関わり、適切な医療・介護につなぎ、環境を整えるサポート

③ 障害者基幹相談支援センター業務の推進

障がいのある方やその家族の住まいや就労、社会参加など、地域の障がいのある方の生活や福祉の総合的な相談窓口として、必要な情報の提供や助言、障害福祉サービスの利用支援を行い、関係機関、地域住民と協働しながら支援を行います。

- 地域の相談支援事業所の相談員への専門的な指導・助言、人材育成権利擁護体制のあり方について市と検討
- 地域の相談支援ネットワークの強化
- 障がい者の病院・施設等から地域生活への移行・定着の促進

(4) 権利擁護体制の基盤整備、機能強化

認知症や障がい等により判断能力が不十分な方が地域で安心して自立した生活が送れるよう、権利擁護機能の強化、体制の構築について検討を行います。

- プロジェクトチームによる権利擁護に関する課題、権利擁護体制のあり方等の検討
- 権利擁護体制のあり方について市と検討

(5) 社協セーフティネット機能の充実・強化

資金貸付事業により低所得・高齢者・障がい者世帯の生活を経済的に支えます。貸付の相談によって発見した複合的な課題を抱えた世帯を総合相談・生活支援センターや地域包括支援センター等と連携し、課題解決に向けて取り組みます。

また、判断能力に不安のある高齢者、知的障がい者、精神障がい者の福祉サービス利用や日常的金銭管理の支援を行い、利用者の生活改善や生活困窮の予防の役割を果たします。

- 生活福祉資金貸付事業の推進
- 法外援護資金貸付事業の推進
- 日常生活自立支援事業の推進
- 緊急食料支援事業を通じた生活困窮者の早期発見・早期対応

(6) 各種相談活動の推進

市民の生活・福祉課題を発見し、様々な生活援助や地域福祉活動につなげるため、小地域福祉活動と連携した身近な相談窓口と専門職との連携を図ります。心配ごと相談所を常設し、いつでも住民が困りごとを相談できる場づくりを整えます。また、豊岡と日高の2カ所で結婚相談所を開設し、相談員間の情報共有、成婚に向けたサポート体制を充実します。

- 法律相談事業の推進
- 心配ごと相談事業の推進
- 結婚相談員の豊富な経験に基づいた結婚相談事業「Hapimari (ハピマリ)」の推進

(7) 住民交流活動の充実と居場所づくりの推進

高齢者や障がいのある方、認知症やひきこもりなど生きづらさを抱えた方、子ども、子育て中の世帯の方たち等が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、住民への理解を広げ、各種サロン・サークル活動、住民交流拠点の定着・充実を図ります。

- ふれあいいいききサロン活動の新規拡大・充実
- 障がいのある方の居場所づくりの推進
- 生きづらさを抱えた方と住民が毎日集い、活動できる交流拠点づくりの推進
- 認知症カフェの運営のサポート
- 子育てサロン・サークル、セルフヘルプグループへの助成による活動基盤のサポート

(8) 指定管理事業

指定管理者として、豊岡市施設の適正な管理運営に努め、利用促進を図ります。

- 豊岡市立各健康福祉センター指定管理事業（6施設）

4. 地域における利用者本位の福祉サービスの実現

地域において、利用者がその人らしく豊かに生活が送れるように、単に決められた介護サービスの供給だけでなく、既存のサービスの枠を超えて、個々のニーズを拾い上げ、的確に柔軟に対応し、例え終末期ケアが必要な状態になっても「在宅生活を守りきる」体制づくりを進めます。

(1) 在宅生活を守りきる介護サービスの実施

①介護サービスによる在宅生活の支援

要介護・要支援状態にある利用者の多様化する介護ニーズに適切に対応できるよう、ケアプランの作成、居宅での身体介護・生活援助、デイサービスセンターでの入浴・食事等のサービス提供を行います。

- 居宅介護支援事業、訪問介護事業、訪問入浴介護事業、通所介護事業、小規模多機能型居宅介護事業の実施

②地域福祉・生活支援拠点の充実

誰もが豊かな人間関係の中でその人らしく住み慣れた地域での在宅生活を守りきるために、利用者の生活・価値観を大切にし、24時間、365日の介護サービス（訪問・通い・宿泊サービス）が提供でき、医療・看護・地域の支え合いをつなぎ合わせた地域福祉・生活支援拠点ぐるらんの充実を図ります。

- 職員の意識改革を図り、チーム支援としての体制を強化
- 職員体制の強化による利用者受入体制の整備
- 利用者への支援を通じた地域住民と協働できる関係づくり
- 支所、地域包括支援センターとの連携による相談機能の向上
- 他事業者の運営方法、取組の導入

(2) 在宅福祉サービスの充実

介護予防及び在宅生活支援の充実を図るため、地域住民と協働した福祉サービスを実施します。

- 介護予防・生活自立支援サービスの事業受託（家族介護支援事業、食の自立支援事業、生きがい活動支援通所事業）
- 産前・産後サポーター派遣事業の受託
- 福祉用具貸与事業（介護保険外）の実施
- 介護用品販売事業の実施

(3) 障害福祉サービス事業の推進

障がいのある方等が、地域で自立した日常生活を送るために、障害福祉サービスの推進を図るとともに、障がいに対する理解に向けた普及・啓発活動を実施することで、障がいのある方等が地域の一員として共に生きる地域社会の実現をめざします

- 障害者総合支援法による良質なサービスの提供（居宅介護、同行援護、移動支援、障害者（児）デイサービス、障害者（児）訪問入浴）
- 市障害者事業の受託による障がいのある方等の自立生活及び社会参加の促進、障がい者理解に向けた普及・啓発活動の実施（障害者（児）スポーツ・レクリエーション教室等開催事業）

5. 様々な地域課題に対応する人材育成と確保

豊岡市社協が地域福祉活動を推進する組織として、求められる職員像を具現化していくためには、スーパービジョン・OJT・キャリアパス等の人材育成体制を充実していくことが重要になります。

職員の資質・スキルアップ向上を図るために、役職・等級等に応じた研修体系と、研修で学んだことが業務にしっかり反映される仕組みづくりを進めます。

働き方改革に伴う同一労働同一賃金への対応を含めて、正規職員と非正規職員の役割の整備、非正規職員の新たな給与制度の構築に取り組みます。

(1) 人事管理制度を通じた人材育成

人事管理制度を通じて、役職・等級に応じた役割の遂行、業務実績に基づいて評価を行い、給料や昇格に反映する人事管理制度を通じて、職員の業務へのモチベーションの向上、人材育成を図り、質の高いサービスの提供や支援活動へつなげます。

同一労働同一賃金への対応を含めた正規職員、嘱託職員、非常勤職員の役割の整備に取り組みます。

- 管理職、監督職、地域福祉、在宅福祉、医療専門、事務の各等級・職種に基づいた業務の遂行と評価の実施
- 業務実績の評価が反映される給与制度の運用（正規職員）
- 嘱託職員、非常勤職員の業務実績の評価が反映される給与制度の構築

(2) 人材の定着化、有資格者の確保

地域福祉、介護サービス、総合相談事業を安定的に推進するには社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員等の有資格者を確保することが重要になります。

専門資格取得をサポートするためのスクーリング経費や受験の交通費等を助成する資格取得制度を奨励し、人事管理制度の役割等級で必須となっている資格取得や研修受講の対象職員に受験・受講を促し、有資格者の確保を進めます。

(3) 計画的な研修体系の構築・実践、業務内容への反映

職員の資質や能力の向上を目的に、役割等級・職種に基づいた組織内部・外部研修を体系的に実施します。

研修内容が各職員の所属部署・事業所内で共有され、業務内容に反映されるよう研修内容の報告の徹底を図ります。

主な内部研修

- ▶ ファシリテーション研修
- ▶ メンタルヘルス研修
- ▶ コンプライアンス研修
- ▶ 説明力強化研修
- ▶ S D G s 研修（持続可能な開発目標）

(4) 働きやすい職場環境づくりの整備

職員の意見を積極的に取り入れ、職員が熱意と柔軟な発想を持って業務に取り組めるよう、風通しが良く働きやすい職場環境の整備に取り組めます。

- ▶ 業務改善に向けた職員の提案募集・採用
- ▶ 職員の様々な思いを聞く相談窓口の設置
- ▶ 子育て世代グループ、資格取得に向けた勉強会等のマッチング・情報提供

6. 社協活動の見える化・透明性の確保

地域福祉活動を推進していくために、様々な場面・媒体等を通じて豊岡市社協が目ざす姿・方向性の発信機能を強化し、住民・NPO・企業・関係機関等の豊岡市社協に対する理解を図り、協力者を増やすことに取り組みます。

(1) 広報活動の促進

ホームページ等を通じた豊岡市社協の事業や活動内容、財政状況等の情報を広く発信します。また、広報紙『N I K O』の紙面の充実を図り、地域の福祉活動、まちづくり、ボランティアに関する情報など、市民が必要とする情報を掲載します。

- ▶ 社協、善意銀行、Hapimari（結婚相談）の各ホームページを活用した情報発信の充実
- ▶ 広報紙『N I K O』の毎月の発行
- ▶ マスメディアを通じた社協事業・活動の発信

➤ 社協事業・活動に関するパンフレット作成の検討

(2) 共同募金・善意銀行の使い途の見える化／市民参画による地域福祉財源の活用の検討

地域福祉活動の推進に向けて、共同募金がしっかり確保できるよう、使い途のPR手段として広報紙・チラシを始め、配分先であるいきいきサロンや子育てサークル等が活動中に掲示する資材の開発を検討します。

善意銀行においては、市民に向けて善意銀行の主旨、活用内容のPR・周知を図り、善意銀行への協力が増えることを目的としたイベントを企業、福祉関係機関等と協働で実施します。

令和元年度に善意銀行プロジェクトチームで研究を行ったひきこもり、子育て、高齢者の活動の場、就労支援のあり方等の新たな取組について検討を行います。